

3. 全県報告会の概要

(1) 目的

全県報告会は「コミュニティ生活圏形成事業」の概要と過年度の取組や今年度実施した3つのモデル地区での取組の成果を基に、手法や手応えを県民、市町村担当職員、関係機関に向けて発信・共有する目的で行われた。

(2) 開催概要

■日時/場所/参加者

- ・日時 2022年3月22日(火) 13:30-16:00
- ・場所 秋田県庁第二庁舎8階 大会議室
- ・参加 60名

■次第

第1部 取組報告と今後に向けて

1. モデル地区におけるコミュニティ生活圏形成への取組報告

報告者	北秋田市大阿仁地区	益田	光	氏
	小坂町川上地区	木村	久	氏
	八峰町岩館地区	須藤	徳雄	氏

進行

(一社) 持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山 浩 氏

2. 3年間の事業実施から見えたもの

～秋田県の課題と可能性、そしてコミュニティの未来形とは?～

(一社) 持続可能な地域社会総合研究所

所長	藤山	浩	氏
特別研究員	高橋	正也	氏
特別研究員	野口	拓郎	氏

第2部 パネルディスカッション

テーマ 「みんなでつくる! 地域で暮らし続ける仕組みと取組」

- ① 今回のコミュニティ生活圏形成事業で一番手応えを感じたことは?
- ② 今後のコミュニティ生活圏形成事業の発展、進化で一番期待されるグループは?
～年代や性別、分野など～
- ③ これからの時代において、秋田県(特に中山間地域)だからこそ、実現出来る暮らしの魅力は?
- ④ 今後に向けての抱負を漢字一文字で

パネリスト	山内地区交流センター運営協議会委員	松井	美和	氏
	(一社) ロンド 代表理事	金子	晃輝	氏

北秋田市地域おこし協力隊 斎藤 美奈子 氏
 由利本荘市地域振興課 主査 加藤 淳子 氏
 秋田県あきた未来創造部 部長 小野 正則

コーディネーター

(一社) 持続可能な地域社会総合研究所 所長 藤山 浩 氏

■当日の様子



(3) 内容紹介

本報告会ではまず初めに今年度、事業を実施した3地区の代表者にとり組内容と成果を発表いただいた。次に本事業の委託先である一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所所長 藤山浩 氏らにより先進地の事例紹介や、3か年の事業の取組について反省点や今後の方策について報告いただいた。最後に「みんなでつくる！地域で暮らし続ける仕組みと取組」と題して事業実施モデル地区の代表者や市の担当者等4名とあきた未来創造部部長の小野が登壇し、パネルディスカッションを行った。このパネルディスカッションは与えられたテーマに対してキーワードを回答し、その意味するところを説明いただく形式で執り行った。登壇された方々がそれぞれの立場から独自の考えを発表され興味深い内容となった。この内容について発表されたキーワードを一覧にし要約を掲載する。

表 パネルディスカッションで発表されたキーワード一覧

	松井氏	金子氏	斎藤氏	加藤氏	小野部長
① 今回のコミュニティ生活圏形成事業で一番手応えを感じたことは？	地域の人的資源	地域の方 300人以上見学	シェア	肩書なしで参加してくれた	—
② 今後のコミュニティ生活圏形成事業の発展、進化で一番期待されるグループは？～年代や性別、分野など～	30～40代の子育て世代	行動優先グループ	40代～60代親世代	食と農グループ 50代～60代女性	—
③ これからの時代において、秋田県（特に中山間地域）だからこそ、実現出来る暮らしの魅力は？	可能性は無限	1人1自由地	何もしない贅沢	DIYできること	課題がある魅力
④ 今後に向けての抱負を漢字一文字で	創	輪	磨	編	多

松井氏の発表内容の要約

- ①地域のために活動している人は少ない印象だったが、この取組のワークショップには多くの人が集まった。地域に思いを持った人が大勢いることに気付くことが出来た。また、若い年代の参加者の掘り起しが課題だと明確になった。
- ②子育て世代の参加が少ない。将来のことを考えるのだから、この世代がもっと頑張っていかなければならない。子連れでも参加しやすいように、託児付き等の支援も必要だ。また子ども自体が参加することも地域教育の一環として、とても大切だと思う。
- ③この取組の初年度に考えて作った天気図の内容の実現はなかなか進んでいない。住民主体的な動きになっていないので人口問題も含めて、しっかりと考えていきたい。そういうことが出来るのも地域の魅力だと思う。
- ④人を創り、機会を創り、様々な取組で創造するということが大切になっていく。

金子氏の発表内容の要約

- ①上浜小学校校舎の利活用については、この取組の中でも住民と相談することが出来た。住民と関係を多く持つことが出来たので、コワーキングスペースとしてプレオープンした際も、住民から好意的に受け止められたことがうれしかった。
- ②地域のために行動しようということに関して年齢は関係なかった。自治会のベテランの方はしっかりと話を聞いてくれた。年代に関係なく一緒にやってみようと自ら動いてくれる信用出来る人と手を携えてやっていきたい。
- ③自由なことが出来る場所が欲しい。秋田で活用されていないような土地を開放することで、その土地を移住促進のために使えるし、今後、重要視され増えてくると思われる人生設計における生活に重きを置いた人々への訴求が出来ると思う。
- ④地域内外の循環を回していきたい。地域の輪を広げていきたい。

斎藤氏の発表内容の要約

- ①思いや考えをシェア出来たこと。移住者がどんな気持ちで来たのか、どんな条件が整えば定住したいと思うのか、簡単なことではないということを地域の方と共有出来たことが良かった。
- ②20代は県外に出て経験を積むべきで、30代くらいになったら地元でその経験を活かしてチャレンジして欲しい。そういう子どもにチャレンジしに帰って来いと言える親がいることがポイント。
- ③人がいない、お店が無い、灯りが無いところを希望して北秋田市にやって来た。何もしないということは人生を豊かにする行為で、それが今は出来る。私にとっては理想とする暮らしが出来る場所だ。
- ④0ではなく1になっている魅力が沢山ある。しっかりと魅力に目を向けて磨いていくことで10までステップを踏んでいくことが出来る。

加藤氏の発表内容の要約

- ①ワークショップになぜ参加要請されたか分からないという人が最後の方では思いを語ったり、意見を出してくれるようになった。肩書の無い人に出番が出来たことが良かった。
- ②行動計画を作る際の出来事だが、出来ることは協力したいと協力的でアイデアも多く出してくれる反面、主役になろうとしない人が多かった。こういう住民が自信を持って主役になって取組んでいけるようにサポートしていきたい。
- ③秋田県には全県規模の秋田県若者会議ネットワークという集まりがある。自分からつながろうと思えばいつでもネットワークにつながる事が出来る。人間関係さえもDIY出来る事が秋田の魅力だ。
- ④地域の人や物事をつないで色を変えたり素材を変えたりして、取組が広がっていくように手助けしたい。

小野部長の発表内容の要約

- ①－
- ②－
- ③全国一少子化が進んでいる本県で解決策が打ち出せれば全国に広める事が出来る。課題があるということは、やる気のある若者にとってはビジネスチャンスがあるということだ。若者チャレンジ応援事業も行っているので、夢をかなえる場所は秋田という気持ちで応援していきたい。
- ④この取組は様々なところから人や知恵が集まって行われ、多様性のある取組だった。また、秋田県多様性に満ちた社会づくり基本条例が施行される。秋田を誰でも暮らしやすい寛容性のある社会にしていきたいと思っている。

今年度も昨年度同様、新型コロナウイルスの終息が見えない中での開催となったため、参集範囲を狭めての開催にせざるを得なかった。しかしながら、関係者以外にも興味を持たれた方々が多数参加され、取組内容と成果が共有された。これまでの取組の総括と今後に向けての波及を促すものとして期待の出来る報告会となった。